2003.10.19
担当：藤田

スキースポーツの社会的特性（Ｐ17～Ｐ32）

みなさん、お疲れ様です。ＳＡＫ専門委員の藤田です。よろしくお願いします。

この時間では、「スキースポーツの社会的特性」について、お話しさせていただきますが、これが終わると、お昼休みになりますので、もうしばらく、がんばってください。

出題範囲としましては、「スキー教程の指導理論編」のＰ17～Ｐ32 までです。この中から、最低でも一問は出題されることになると思いますので、お聞き逃しのないようにお願いします。

このパートは、「スポーツの必要性と社会的背景」から始まって、「スキー指導者の役割」までの６項目から構成されておりますが、正指を受検される先生方に加え、今回準指受検を決意された受検者の方々が実際に検定に合格され、様々な現場で指導にあたられる際に必要となる事柄がたくさん記載されています。ただ一方的に技術論を振りかざして指導するのではなく、このパートの内容をよく理解して、様々な学習者層から支持が得られる指導者になっていただきたいと思います。もちろん、私も引き続き研鑽しているところです。

それでは、教程のＰ18 を開いてください。

１． スポーツの必要性と社会的背景

先ず、「スポーツの必要性と社会的背景」についてですが、ここでは高度情報化社会が進む環境の下では、むしろ人間本来の姿に帰り、個人の健康や生きがいが実感できる生活を求める傾向が高まってきているということと、制度的にも「スポーツ振興法」によって、スポーツ振興の施策が進められてきているということが記載されています。

２．スキースポーツの社会的特性

次にＰ19 の「スキースポーツの社会的特性」についてですが、ここでは大きく四つの項目が掲げられています。

１）自己実現・自己創造に最適なスポーツ
２）自然環境に恵まれたシーズンスポーツ
３）広域活動による滞在型スポーツ
４）多様な活動タイプのスポーツ　　の四つです。

特にＰ20 の２）の「自然環境に恵まれたシーズンスポーツ」のところでは、「屋内施設などによりシーズンオフでも滑走が可能となりましたが、これらはあくまで代替えでアミューズメント的なものです」とあります。この代表的なものとして「ザウス」がありましたが、集客数が減り

続けて結局のところ閉鎖されてしまいました。私も含めてここにいらっしゃる方々のようなスキーヤーにとっては、良いオフトレスキー場であったわけですが、やはり一般的には本物のスキー場には遥か及ばなかったということなのでしょう。

それでは、二番目の段落を読んでみます。

「スキーをするには、日常生活圏を離れ、積雪山岳地帯に出かけることとなります。スキー場周辺の山岳地は自然環境が豊かです。白銀に輝く山嶺、清冽な空気、時間によって刻々と変わる気象条件や雪質など、自然を肌に感じることができます。時には野ウサギやリスなどの動物との出会いなどもあります。このようにスキーは自然と向き合うスポーツなのです。」

ここは、出題される可能性が高いですから、チェックしておいてください。

３．スポーツ文化としてのスキーの特性

次にＰ21 の「スポーツ文化としてのスキーの特性」についてですが、

１）「スキー文化の特性」については、一番最後の段落になりますが、「スキーは、自らの意思で、自由に滑るという運動そのものを楽しむことができ、自然とのふれあい、仲間との交流などを生き生きと体験できる文化です」と要約されています。
ここも、出るかもしれません。要チェックです。

次に２）の「スキーの楽しさ」についてですが、(1)に「滑る楽しさ」とあります。これはスキーである限り、「滑る」ことが何より楽しいわけで、スキーの本質的・一次的価値となるわけです。しかし、スキーにはこれに加え(2)の「スキー活動に伴う楽しさ」にありますように、付帯的・二次的価値として「自然に接する楽しさ」や「社交・仲間づくりの楽しさ」があります。

私も子供の頃に初めてスキーに行ったときのことを思い出しますと、プルークボーゲンで滑った楽しさよりも、往復のバスや民宿で見た紅白歌合戦、初めてのリフト、新雪につけられたウサギの足跡、友達ができたことのほうがより楽しい思い出として今でも鮮明に残っています。したがって、学習者のライフステージやスキーレベルによっては、滑ること以上に付帯的・二次的価値の方が楽しい場合もあるということだと思います。

そしてこのように初めてのスキーが楽しいものになると、「また行きたい」という思いから、次のページの「生活文化としての定着」に結びつくのだと思います。

４．生涯スポーツとしてのスキー

次にＰ22 の「生涯スポーツとしてのスキー」については、冒頭でも少し触れましたように、「高度情報化社会」が進めば進むほど、逆に人間同士の直接的なコミュニケーションが求められるということになるのではないでしょうか。

また、「高齢化社会とスキー」のところでは、中高年者のレジャーの関心が「健康」「社交」「アウトドア（自然)」「知識・教養」に集中しているということですから、こうしたニーズに対しても、スキーはまさに打って付けのスポーツになるものと考えられます。
また、わが国の労働時間の短縮化の進展により、従来の「金銭消費型レジャー」は「時間消費型レジャー」に変化しているということですから、滞在型・広域活動を伴うスキーへの参加もしやすくなっていると思いますし､我々もそうした方々にきっかけづくりをしてあげることが大切だと思います。

次にＰ24 の４）「ライフステージにおける生涯スキー」ですが、ここでは、幼年期から高齢期までのスキー活動の内容と実施上の注意点がまとめられています。
なるほどと思うようなことがたくさん書いてありますので、必ず一度は目を通して内容を理解しておいておいてください。

５．スキー人口と参加パターン

次にＰ26 の「スキー人口と参加パターン」では、スキー参加者数のヒストリカルデータがグラフで示されています。内容としては、みなさんも実感しているとおり、１９９３年以降、下降トレンドとなっています。特に１９９７意向は急速に参加者数が減少しています。教程には１９９９年までしかないために、最新の白書を購入して捕捉しようと思ったのですが、一冊 3,675 円もしたので、やめました（すみません)。ただ、インターネットで調べてみますと、正確かどうかはわかりませんが、直近では、約１,０００万人にまで減少している模様です。
それから、教本にはデータの出所が「余暇開発センター」となっていますが、この団体はどうやら解散しているらしくて、現在は「(財）社会経済生産性本部」というところが白書を出版しているようです。

今、みなさんも正指や準指合格に向けて時間とお金を惜しまずに、一生懸命勉強しているわけですが、いざ合格しても、指導する生徒さんたちがいなかったなどということにならないよう、我々がスキー人口を増やしていく努力がもっともっと必要だと､こうした数字を見るたびに痛感しています。

次に２）「スキー実施者の参加形態」についてですが、Ｐ28 に図がありますように、「スキースポーツの価値観と参加形態」は大きく変化しています。
ここにいらっしゃるみなさんは、私を含めて、２番の連山型のイメージをお持ちの方が多いのではないかと思います。所謂、競技派と基礎派です。しかし、現実は山脈型です。
どうしても、私達は、ＳＡＪの中のＳＡＫの中の○○協会の中の○○クラブに所属しているという世界を普通だと思いがちなわけですが、実際には､「余暇エンジョイ型」であったり､「自然志向型」であったり､「健康志向型」であったりと、さまざまなスキーヤーがいるわけで、潜在的にもそうしたスキーヤーがたくさんいるはずです。
ですから、クラブ行事にかかわらず、職場の同僚や友人達と行くスキーなどにも積極的にご参加いただき、また企画して、そうした場での「上手くなることの楽しさ」をご指導いただければと思います。

６．スキー指導者の役割

最後にＰ29 の「スキー指導者の役割」についてですが、ここはとても重要です。

まず１）の「スキー指導の社会的意義」についてですが、ちょっと読んでみます。

「スキー指導者の役割は、たんにスキー技術を教えることだけではありません。対象とする人たちの多様な欲求に応えるように、スキー環境を用意し、安全で心身ともに満足できる楽しい学習内容を提供するところにあります。それによって、個人の欲求を充足させるとともに、健康で、豊かな社会生活が送れるように支援するのです。」

この部分はよく頭に入れておいてください。出題の可能性が高いです。

次に２）の「スキー指導者に必要な資質」についてですが、先ほどから申しあげているように、現在のスキーヤーの参加形態は山脈型であり、多様な指向やニーズがあります。したがって、我々指導する立場の人間は、冒頭でも申しあげましたが、単に技術論を振りかざしたり、上から下にものを言うような教え方をしたのでは、学習者達はみな逃げていってしまいます。こうした多様な欲求をもつ人々を満足させられるような資質をもつことが、極めて重要だと思います。また、指導員であるかぎり、どんなに謙虚に振舞ったとしても、周りの人たちからは一目置かれる存在になるわけですから、スキー技術や多様な欲求への対応にとどまらず、人間的にも愛されるようなスキーヤーでありたい、と私自身つくづく思っております。

それから、スキー指導の対象者は様々で、クラブや個人でスキーをしている人のほか、関心があっても実施できないでいる「潜在スキーヤー」、関心がない「非実施者」までが私達の指導対象者ですから、こうした人たちを雪上に引っ張り出して、スキーの楽しさという麻薬を注射するのも指導者重要な役割になるのではないかと思います。

各階層への指導者の役割については、Ｐ30 の３）「多様な階層に対する指導者の役割」に具体的な説明があります。

また４）では、「各ライフステージにおける指導者の役割」が記載されていますので、読んでおいてください。

最後にＰ32 の５）「まとめ」として、「多様な対象者に対応する指導者の役割」についてですが、①の「リーダーサービス」から⑤の「プログラムサービス」までの五つについては、よく覚えておいてください。ここも、出題の可能性が高いです。

以上が、「スキースポーツの社会的特性」についての説明です。

最後にもう一度、出題の可能性の高い個所を確認しておきます。

(1)　Ｐ20 の２）「自然環境に恵まれたシーズンスポーツ」の第二段落のところ
(2)　Ｐ21 の１）「スキー文化の特性」の一番下の段落のところ

（3）　Ｐ29 の１）「スキー指導の社会的意義」の最初の段落のところ
（4）　Ｐ32 の５）「まとめ：多様な対象者に対応する指導者の役割」の①～⑤

理論検定に関しては、雪の降る前にしっかりと勉強しておいてください。そして、雪上での実技に専念できるようにがんばってください。雪上の養成講習会で、またお会いできることを楽しみにしています。

また、ここにいらっしゃる方々は、社会人の方が殆どだと思いますが、学生時代とは異なり、一つのことに夢中になれる機会はなかなか少ないと思います。そうしたなかで、みなさんは、自らの選択で受検を決意したわけですから、結果ばかりを意識するのではなく、とにかく真正面から一つ一つ体当たりでがんばってください。自ずと良い結果がついてくると信じています。

それでは、これで終わりにします。お疲れ様でした。

以　上